

「北風」 おまえはそれを聞きに来たのか？

ブウツ そうです。——そうなんです。……

「北風」 たしかにそうか？

ブウツ ぼく、うそはつきません。だましなんかしません。——（小さな声で）おかアさんはだましてしまったけれど。……（宿屋の亭主の唄をうたう声が遠く聞える）

おや？

「北風」 なんだ？

ブウツ 声が聞えます。——あいつです。——あいつの声です。……

「北風」 あいつとはだれだ？

ブウツ 宿屋です。——宿屋の亭主です。

「北風」 宿屋の？

ブウツ ええ、そうです。——きっとあなたに逢いに来たんです。——知らない顔であなたに逢いに来たんです。

「北風」 よし、おまえはそこにかくれている。

ブウツ、かくれる。

間。

宿屋の亭主、登場。——雪、また、ちらちらふって来る。

宿屋の亭主 さア吹け、いくらでも吹け。——ふれ、いくらでもふれ。——いくら吹いて来ようと、ふって来ようと、そんなことにビクともするようなおれさまじゃアないぞ。（風、ひとしきり強くふく。——宿屋の亭主、あぶなくよろける）おツと、と。——あぶない。——これはあんまりえられないぞ。……（「北風」、だまって宿屋の亭主のまえに立つ。ギョツとしたがわざと）なんだ、おまえは？

「北風」 おれだ。

宿屋の亭主 おれじゃアわからない、名前をいえ。

「北風」 おれはこここのぬしだ。

宿屋の亭主 こここのぬし……？

「北風」（命令するように）ここへくるものはだれでもおれのいうとおりになるんだ。——その氷の中をのぞいてみる。

宿屋の亭主 氷の中？（のぞいてびっくりする）

「北風」 わるくおれにたてでもつけばみんなこのとおりだ。——氷の木乃伊はまたたくひまだ。